■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	無期限（設定日：2024年10月28日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的に世界のハイイールド債券に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 **SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Fクラス、円建て、年2回分配、ヘッジなし）／（Iクラス、円建て、年2回分配、ヘッジなし）** 世界各国のソブリン・準ソブリン・企業が発行する高利回り債券 **マネー・トラスト・マザーファンド** 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■主として世界のハイイールド債券に投資します。 ■世界のハイイールド債券の実質的な運用は、アレス・キャピタル・マネジメント II エルエルシーが行います。 ■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年4回（原則として毎年1月、4月、7月、10月の24日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

アレス・グローバル・ハイイールド債券ファンド（為替ヘッジなし／年4回決算型）

【運用報告書（全体版）】

第1作成期（2024年10月28日から2025年4月24日まで）

第1期／第2期

第1期：決算日　2025年1月24日
第2期：決算日　2025年4月24日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。
当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、実質的に世界のハイイールド債券に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。
今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

三井住友DSアセットマネジメント
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
https://www.smd-am.co.jp

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター　0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			（参考指数）ICE BofA グローバル・ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルヘッジ、円換算ベース）		公社債組入比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	（分配落）	税込分配金	期中騰落率		期中騰落率			
（設定日）	円	円	%		%	%	%	百万円
2024年10月28日	10,000	－	－	100.00	－	－	－	10
１期（2025年１月24日）	10,229	0	2.3	104.40	4.4	0.0	95.1	88
２期（2025年４月24日）	9,227	110	△ 8.7	95.19	△ 8.8	0.0	93.0	90

※基準価額の騰落率は分配金込み。
※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。
※参考指数は、当報告書作成時に知りえた情報をもとに当社が独自に計算し、設定時を100として、指数化しています。なお、基準価額の反映を考慮した日付の値を使用しています。
※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。
※参考指数は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指数を意識して運用しているわけではありません。

当作成期中の基準価額と市況等の推移

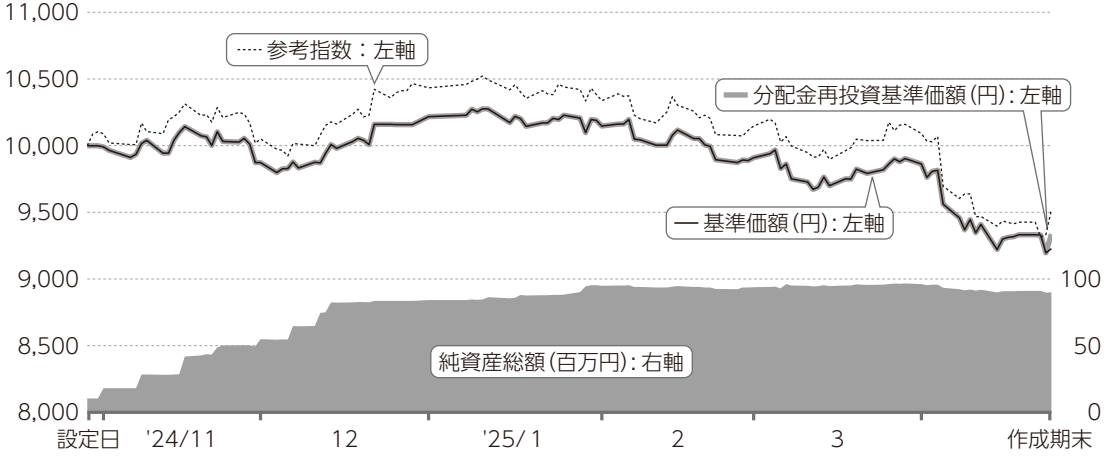
決算期	年月日	基準価額		（参考指数）ICE BofA グローバル・ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルヘッジ、円換算ベース）		公社債組入比率	投資信託証券組入比率
			騰落率		騰落率		
	（設定日）	円	%		%	%	%
	2024年10月28日	10,000	－	100.00	－	－	－
第１期	10月末	9,991	△ 0.1	100.90	0.9	0.1	55.7
	11月末	9,872	△ 1.3	100.51	0.5	0.0	85.0
	12月末	10,218	2.2	104.33	4.3	0.0	90.1
	（期末） 2025年１月24日	10,229	2.3	104.40	4.4	0.0	95.1
	（期首） 2025年１月24日	10,229	－	104.40	－	0.0	95.1
	１月末	10,147	△ 0.8	103.37	△ 1.0	0.0	96.1
第２期	２月末	9,910	△ 3.1	101.47	△ 2.8	0.0	95.1
	３月末	9,863	△ 3.6	100.91	△ 3.3	0.0	92.2
	（期末） 2025年４月24日	9,337	△ 8.7	95.19	△ 8.8	0.0	93.0

※期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定日比または期首比です。
※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

基準価額等の推移



※参考指数は、設定日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

設 定 日	10,000円
作成期末	9,227円 （当作成期既払分配金110円（税引前））
騰 落 率	−6.6% （分配金再投資ベース）

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。（以下、同じ）

※当ファンドの参考指数は、ICE BofA グローバル・ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルヘッジ、円換算ベース）です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として世界のハイイールド債券に投資しました。

実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行いませんでした。

上昇要因

●ハイイールド債券の金利収入を得たこと

下落要因

●米景気後退懸念の高まりなどを背景に、米ドル安・円高が進行したこと

●米国による相互関税の導入発表などを受けた景気後退懸念から、ハイイールド債券のスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したこと

投資環境について（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

ハイイールド債券市場は、上昇しました。為替市場では、米ドルは対円で下落しました。

ハイイールド債券市場

期前半は、堅調な米経済指標に加えて、トランプ新政権の政策による財政悪化やインフレ再燃への懸念を背景に、米国を中心に国債利回りは上昇（価格は下落）しました。ただし、ハイイールド債券のスプレッドは、米国を中心とした堅調な経済指標を背景に経済の底堅さが意識されて縮小しました。

期後半は、米国の関税政策への報復措置などへの警戒感を背景にグローバル景気の減速が意識されたことから米国を中心に国債利回りは低下しました。しかし、期末にかけては、米国による相互関税の導入発表や各国からの報復関税の発表を受け、景気後退懸念やインフレ再燃懸念の増大を背景に、スプレッドは拡大、国債利回りは上昇しました。

期を通じて見ると、金利収入の影響などから、ハイイールド債券市場は上昇しました。

為替市場

米国では期前半は、トランプ新政権の政策によって米国の成長が加速するとの期待感が高まったことに加えて、堅調な米国経済指標を受けて米国の利下げが緩やかなものとなる見方が広がったことを背景に、米ドル高・円安が進行しました。

一方、期末にかけては、米国による相互関税とそれに対する報復関税の発表を背景に、米景気後退懸念が高まったことから、米ドル安・円高が進行しました。

期を通じて見ると米ドル安・円高となりました。

ポートフォリオについて（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

当ファンド

当ファンドは「SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）、（Ｉクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）」および「マネー・トラスト・マザーファンド」を主な投資対象とし、今期は「SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）」の組み入れを高位に保ちました。

SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）

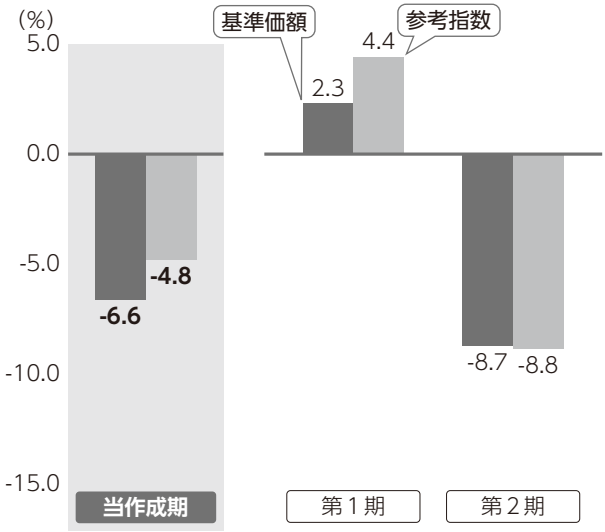
主に世界各国・地域の先進国通貨建ての投資適格未満の債券への投資を通じて安定的なリターンを目指しました。運用にあたっては、個別債券の発行体に対する徹底したクレジット分析に加え、投資先企業へのエンゲージメントを通じて、責任ある企業行動を促し、企業のＥＳＧリスク管理を強化しました。当期においては、米ドルが対円で下落したことなどがマイナス要因となりました。

マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

基準価額と参考指数の騰落率対比



※当作成期の基準価額は分配金再投資ベース、各期は分配金（税引前）込み。

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてICE BofA グローバル・ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルヘッジ、円換算ベース）を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

（単位：円、１万口当たり、税引前）

項　目	第１期	第２期
当期分配金	0	110
（対基準価額比率）	（0.00%）	（1.18%）
当期の収益	－	－
当期の収益以外	－	110
翌期繰越分配対象額	264	154

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の１万口当たりの分配金（税引前）は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続き、「SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）、（Ｉクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）」を主要投資対象とし、安定的な収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）、（Ｉクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）

米国では、関税引き上げによる景気減速懸念からＦＲＢ（米連邦準備制度理事会）の利下げ期待が高まっています。一方、財政赤字拡大による米国債需給悪化懸念から、期間プレミアムの低下余地は限られると考えます。そのため、長期金利（10年国債利回り）は横ばいの展開を予想します。ユーロ圏では、米関税引き上げはユーロ圏の景気を鈍化させる要因となります。欧州が報復関税を実施しなければインフレ加速のリスクは小さく、ＥＣＢ（欧州中央銀行）は追加利下げを実施すると考えます。一方、財政拡張がユーロ圏経済を支えることが見込まれます。こうしたことから、長期金利は横ばいの展開を予想します。

ハイイールド市場は、米国の関税政策を巡り非常に変動の大きな動きが継続しており、当面は慎重な投資スタンスの維持が適切であると考えます。引き続き、徹底したクレジット・リサーチに基づく銘柄選択を中心とした運用を継続する方針です。

マネー・トラスト・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

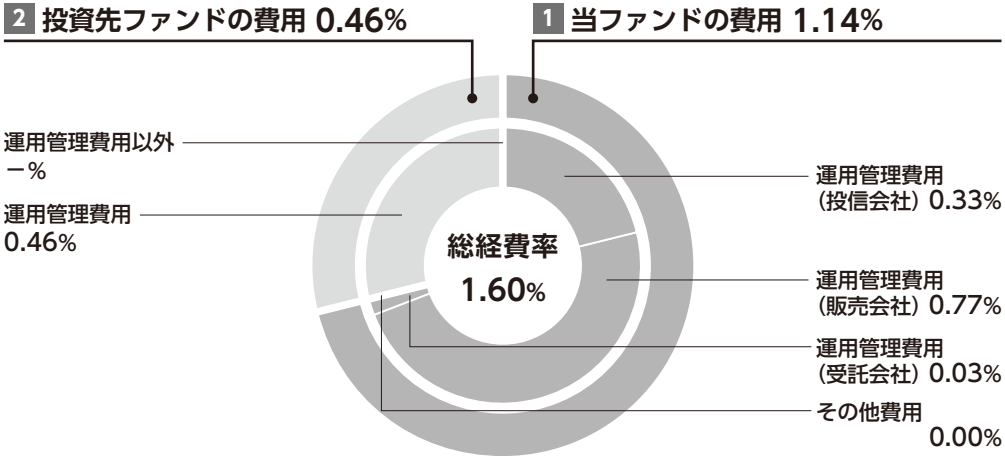
●投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。（適用日：2025年４月１日）

１万口当たりの費用明細（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

項　目	金額	比率	項目の概要
(a) 信　託　報　酬	55円	0.555%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数） 期中の平均基準価額は9,921円です。
（投　信　会　社）	(16)	(0.162)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
（販　売　会　社）	(37)	(0.378)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受　託　会　社）	(2)	(0.016)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株　　式）	(－)	(－)	
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株　　式）	(－)	(－)	
（公　社　債）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) そ の 他 費 用	0	0.002	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 そ の 他:信託事務の処理等に要するその他費用
（保　管　費　用）	(－)	(－)	
（監　査　費　用）	(0)	(0.002)	
（そ　の　他）	(－)	(－)	
合　　計	55	0.558	

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
※比率欄は１万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。
※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率（1＋2）		1.60%
1 当ファンドの費用の比率		1.14%
2	投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.46%
	投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	－%

※1の各費用は、前掲「１万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値（小数点以下第２位未満を四捨五入）です。「１万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※2の投資先ファンド（当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く））の費用は、直近の費用の詳細データが入手できていないため、目論見書に記載している「運用管理費用」の料率を使用しています。運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれていません。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、費用を計算しています。

※1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率（年率）は1.60%です。

当作成期中の売買及び取引の状況（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

(1) 投資信託証券

		当作成期			
		買付		売付	
		口数	買付額	口数	売付額
		口	千円	口	千円
国内	SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Fクラス、円建て、年2回分配、ヘッジなし）	9,188	91,956	－	－

※金額は受渡し代金。
※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	当作成期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
マネー・トラスト・マザーファンド	10	10	－	－

利害関係人との取引状況等（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

利害関係人との取引状況

アレス・グローバル・ハイイールド債券ファンド（為替ヘッジなし／年４回決算型）

当作成期中における利害関係人との取引等はありません。

マネー・トラスト・マザーファンド

区分	当作成期					
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	2,444	2	0.1	499	－	－

※平均保有割合　0.0%
※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第１項に規定される利害関係人であり、当作成期における当ファンドに係る利害関係人とは、ＳＭＢＣ日興証券株式会社です。

第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

（2024年10月28日から2025年４月24日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

組入れ資産の明細（2025年４月24日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	作成期末		
	口数	評価額	組入比率
	口	千円	%
SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Fクラス、円建て、年2回分配、ヘッジなし）	9,188.422	83,715	93.0
合計	9,188.422	83,715	93.0

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種類	作成期末	
	口数	評価額
	千口	千円
マネー・トラスト・マザーファンド	10	10

※マネー・トラスト・マザーファンドの作成期末の受益権総口数は790,846,679口です。

投資信託財産の構成

（2025年４月24日現在）

項目	作成期末	
	評価額	比率
	千円	%
投資証券	83,715	91.6
マネー・トラスト・マザーファンド	10	0.0
コール・ローン等、その他	7,676	8.4
投資信託財産総額	91,402	100.0

資産、負債、元本及び基準価額の状況

（2025年１月24日）（2025年４月24日）

項目	第１期末	第２期末
(A) 資産	88,497,497円	91,402,155円
コール・ローン等	4,490,023	7,676,161
投資証券（評価額）	83,997,475	83,715,988
マネー・トラスト・マザーファンド（評価額）	9,999	10,006
(B) 負債	170,832	1,337,339
未払収益分配金	－	1,073,711
未払信託報酬	170,138	261,847
その他未払費用	694	1,781
(C) 純資産総額（A－B）	88,326,665	90,064,816
元本	86,350,333	97,610,164
次期繰越損益金	1,976,332	△7,545,348
(D) 受益権総口数	86,350,333口	97,610,164口
１万口当たり基準価額（C／D）	10,229円	9,227円

※当作成期における作成期首元本額10,370,844円、作成期中追加設定元本額87,239,320円、作成期中一部解約元本額0円です。
※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の６第10号に規定する額（元本の欠損）となります。
※上記表中の受益権総口数および１万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の６第７号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

損益の状況

項目	第１期（自2024年10月28日 至2025年１月24日）	第２期（自2025年１月25日 至2025年４月24日）
(A) 配当等収益	2,309,487円	6,403円
受取配当金	2,306,438	－
受取利息	3,049	6,403
(B) 有価証券売買損益	41,036	△8,281,480
売買益	41,037	7
売買損	△1	△8,281,487
(C) 信託報酬等	△170,832	△262,934
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	2,179,691	△8,538,011
(E) 前期繰越損益金	－	2,179,691
(F) 追加信託差損益金	△203,359	△113,317
（配当等相当額）	（105,471）	（403,451）
（売買損益相当額）	（△308,830）	（△516,768）
(G) 合計（D＋E＋F）	1,976,332	△6,471,637
(H) 収益分配金	－	△1,073,711
次期繰越損益金（G＋H）	1,976,332	△7,545,348
追加信託差損益金	△203,359	△113,317
（配当等相当額）	（105,471）	（403,451）
（売買損益相当額）	（△308,830）	（△516,768）
分配準備積立金	2,179,691	1,105,980
繰越損益金	－	△8,538,011

※有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。
※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。
※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
※分配金の計算過程は以下の通りです。

	第１期	第２期
(a) 経費控除後の配当等収益	2,141,645円	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	38,046	0
(c) 収益調整金	105,471	403,451
(d) 分配準備積立金	0	2,179,691
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	2,285,162	2,583,142
１万口当たり当期分配対象額	264.64	264.64
(f) 分配金	0	1,073,711
１万口当たり分配金	0	110

分配金のお知らせ

１万口当たり分配金（税引前）	第１期	第２期
	0円	110円

※分配金は、分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額「普通分配金」となり課税されます。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は下回る部分が「元本払戻金（特別分配金）」となり非課税、残りの部分が「普通分配金」となります。

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第１項各号に該当する事項はありません。

組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）／（Ｉクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）
形態	ルクセンブルグ籍会社型投資信託（円建て）
主要投資対象	世界各国のソブリン・準ソブリン・企業が発行する高利回り債券（以下「ハイイールド債券」といいます）
運用の基本方針	世界各国のハイイールド債券に投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。 ●運用にあたっては、個別債券の発行体に対する徹底したクレジット分析を行います。また、クレジット分析に加えて、ESGに着目した発行体分析も活用します。 ●投資先企業へのエンゲージメントを通じて、責任ある企業行動を促し、企業のESGリスク管理を強化します。 ●本サブファンドは米ドル建てで運用されます。米ドル以外の通貨建ての債券等へ投資する場合には、原則として対米ドルで為替取引を行うことにより米ドルに対する為替変動リスクの低減を目指します。
主な投資制限	●同一発行体への投資比率は、純資産総額の5％以下とします。 ●同一業種への投資比率は、純資産総額の15％以下とします。 ●キャッシュ等への投資比率は、純資産総額の20％以下とします。ただし、市場環境に応じて一時的に純資産総額の最大100％をキャッシュ等に投資することができます。
分配方針	年２回分配を行う方針です。
Ｆクラスの投資上限額	Ｆクラスにおいては、純資産が２億米ドルに達した時点で購入申込の受付が停止されます。
運用管理費用	純資産総額に対して 運用報酬　（Ｆクラス）年0.3％　（Ｉクラス）年0.5％ 管理会社報酬　年0.08％程度　（最低年42,000ユーロ） 管理事務費用　年0.12％程度　（最低年54,000ユーロ） ※上記の運用報酬には副投資顧問会社への報酬（年0.255％～年0.325％）が含まれております。 ※年間最低報酬額や取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回ることがあります。ただし、ファンドの受益者が負担する運用管理費用の上限は、Ｆクラスは年0.7％、Ｉクラスは年0.9％とし、上限を超える部分を投資顧問会社または副投資顧問会社が負担します。
その他の費用	ファンドの取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。 その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
投資顧問会社	スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（UK）リミテッド
副投資顧問会社	アレス・キャピタル・マネジメント II エルエルシー
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

「SMD-AM アレス ESG エンハンスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド（Ｆクラス、円建て、年２回分配、ヘッジなし）」は直近のデータが入手できないため、記載すべきデータはございません。

マネー・トラスト・マザーファンド

第９期（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年１月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

最近５期の運用実績

決算期	基準価額		公社債組入比率	純資産総額
		期中騰落率		
	円	%	%	百万円
５期（2020年10月12日）	9,970	△0.1	74.8	12
６期（2021年10月12日）	9,962	△0.1	70.1	15
７期（2022年10月12日）	9,958	△0.0	73.8	15
８期（2023年10月12日）	9,952	△0.1	75.0	15
９期（2024年10月15日）	9,949	△0.0	99.7	1,316

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額と市況等の推移

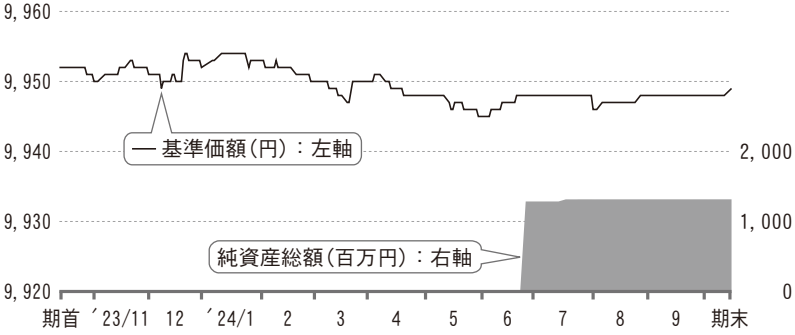
年月日	基準価額		公社債組入比率
		騰落率	
（期首）	円	%	%
2023年10月12日	9,952	－	75.0
10月末	9,950	△0.0	74.9
11月末	9,951	△0.0	74.9
12月末	9,952	0.0	75.0
2024年１月末	9,953	0.0	74.9
２月末	9,950	△0.0	74.9
３月末	9,950	△0.0	74.9
４月末	9,948	△0.0	74.8
５月末	9,945	△0.1	74.8
６月末	9,948	△0.0	99.7
７月末	9,946	△0.1	99.7
８月末	9,948	△0.0	99.7
９月末	9,948	△0.0	99.7
（期末）			
2024年10月15日	9,949	△0.0	99.7

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

基準価額等の推移



期　首	9,952円
期　末	9,949円
騰 落 率	−0.0%

▶ 基準価額の主な変動要因（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

上昇要因	・日銀が2024年３月にマイナス金利政策を解除し、７月に追加利上げを行ったことを受け、短期公社債や短期金融商品の利回りが上昇したこと
下落要因	・３月中旬まで日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期公社債や短期金融商品のマイナス利回りの影響が残ったこと

▶ 投資環境について（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

短期金利は、上昇しました。

円安進行などの影響から物価上昇率が高止まりし、ＣＰＩコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比＋２％以上での推移となりました。日銀は物価目標の実現が見通せる状況に至ったと判断し、2024年３月に開催された金融政策決定会合で、日銀当座預金付利金利を0.1％に引き上げることで無担保コール（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利を０～0.1％程度で推移するよう促すことを決定しました。さらに、７月の金融政策決定会合で追加利上げを決

定し、無担保コール翌日物金利の誘導目標を0.25％程度としました。
国庫短期証券３ヵ月物利回りは、期初から2024年１月中旬までは概ねレンジ推移となりました。１月に行われた金融政策決定会合後の植田日銀総裁の会見が、政策変更が近づいていることを意識させるタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な内容だったことから、利回りは上昇基調となりました。３月に、日銀がマイナス金利政策を解除したことから、利回りはプラス圏へ上昇し、７月の追加利上げ後にはさらに上昇しました。しかし、日銀の資金供給オペの担保として国庫短期証券へのニーズが強まる一方、発行額が段階的に減額されたことから、期末にかけて利回りの上昇幅は縮小しました。

▸ポートフォリオについて（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

残存０年から１年３ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

▸ベンチマークとの差異について（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

国内景気は、賃金上昇や経済対策の下で消費が回復しており、堅調な設備投資意欲や海外経済の底堅さも背景に、緩やかな成長軌道が続く見通しです。ＣＰＩコアの前年比伸び率は、賃金上昇に伴うサービス物価上昇により＋２％程度の伸び率を維持できる見通しです。物価安定の目標達成が視野に入る中で日銀が追加利上げ姿勢を維持していることは金利の上昇要因ですが、短期市場での強い資金運用ニーズが金利上昇を抑制する見込みです。
引き続き、残存０年から１年３ヵ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

１万口当たりの費用明細（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用	0円	0.000％	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（その他）	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	0	0.000	

期中の平均基準価額は9,949円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
※比率欄は１万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

当期中の売買及び取引の状況（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	2,611,872	－ (1,306,000)
	特殊債券	－	－ (5,900)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）
※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

利害関係人との取引状況等（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。
※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第１項に規定される利害関係人です。

第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2023年10月13日から2024年10月15日まで）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

組入れ資産の明細（2024年10月15日現在）

公社債

A　債券種類別開示

国内（邦貨建）公社債

区分	期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	1,312,000 (1,309,000)	1,311,919 (1,308,918)	99.7 (99.4)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	99.7 (99.4)
合計	1,312,000 (1,309,000)	1,311,919 (1,308,918)	99.7 (99.4)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	99.7 (99.4)

※（ ）内は非上場債で内書きです。
※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B　個別銘柄開示

国内（邦貨建）公社債

種類	銘柄	期末			
		利率	額面金額	評価額	償還年月日
		%	千円	千円	
国債証券	1247国庫短期証券	－	1,300,000	1,299,928	2024/11/05
	337　10年国債	0.3000	3,000	3,001	2024/12/20
	1226国庫短期証券	－	3,000	2,998	2025/04/21
	144　５年国債	0.1000	3,000	2,998	2025/06/20
	1257国庫短期証券	－	3,000	2,993	2025/09/22
小計		－	1,312,000	1,311,919	－
合計		－	1,312,000	1,311,919	－

投資信託財産の構成

（2024年10月15日現在）

項目	期末 評価額	期末 比率
	千円	%
公社債	1,311,919	99.7
コール・ローン等、その他	4,564	0.3
投資信託財産総額	1,316,483	100.0

資産、負債、元本及び基準価額の状況

（2024年10月15日現在）

項目	期末
(A) 資産	1,316,483,808円
コール・ローン等	4,560,734
公社債(評価額)	1,311,919,329
未収利息	3,688
前払費用	57
(B) 純資産総額(A)	1,316,483,808
元本	1,323,298,164
次期繰越損益金	△ 6,814,356
(C) 受益権総口数	1,323,298,164口
1万口当たり基準価額(B／C)	9,949円

※当期における期首元本額16,009,841円、期中追加設定元本額1,307,408,528円、期中一部解約元本額120,205円です。
※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の６第10号に規定する額（元本の欠損）となります。
※期末における元本の内訳は以下の通りです。

ライフ・ジャーニー（かしこく育てるコース）	2,543,560円
ライフ・ジャーニー（かしこく使うコース）	2,453,434円
ライフ・ジャーニー（充実して楽しむコース）	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド（資産成長型）	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド（３％目標受取型）	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド（６％目標受取型）	100,141円
ＭＦＳ・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクイティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリプル（予想分配金提示型）	300,632円
ボンド・ゼロトリプル（資産成長型）	300,632円
テトラ・ネクスト	3,712,251円
ＭＦＳ米国中型成長株式ファンド（為替ヘッジあり）	1,003,311円
ＭＦＳ米国中型成長株式ファンド（為替ヘッジなし）	1,003,311円
ＰＩＭＣＯグローバル・ターゲット戦略債券ファンド2021-06（限定追加型）	903,343円
バロン・グローバル・フューチャー戦略ファンド（資産成長型）	20,087円
バロン・グローバル・フューチャー戦略ファンド（予想分配金提示型）	20,087円
クライメート・ソリューション・ファンド	1,004,218円
ＣＬＯインカムファンド（為替ヘッジなし）	562,928円
ＣＬＯインカムファンド（為替ヘッジあり）	50,262円
トータルヘッジ用ファンドＳＭＢ１号<適格機関投資家限定>	341,777,243円
トータルヘッジ用ファンドＳＭＢ２号<適格機関投資家限定>	965,018,095円

※上記表中の受益権総口数および１万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の６第７号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

損益の状況

（自2023年10月13日　至2024年10月15日）

項目	当期
(A) 配当等収益	149,769円
受取利息	149,909
支払利息	△ 140
(B) 有価証券売買損益	△ 88,957
売買益	36,589
売買損	△ 125,546
(C) その他費用等	△ 1,002
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	59,810
(E) 前期繰越損益金	△ 76,265
(F) 解約差損益金	627
(G) 追加信託差損益金	△6,798,528
(H) 合計(D＋E＋F＋G)	△6,814,356
次期繰越損益金(H)	△6,814,356

※**有価証券売買損益**は期末の評価換えによるものを含みます。
※**追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
※**解約差損益金**とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

お知らせ

＜約款変更について＞
・デリバティブ取引の利用目的を明確化するため、信託約款に所要の変更を行いました。
（適用日：2023年10月13日）